

開催期間 2021年

3 / 13 土 ▼ 6 / 13 日

やさものの心やさに挑んだ

瀬戸 美濃 の美

【開館時間】午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

【休館日】毎週月曜日（祝・休日の場合開館、翌平日休館）

【入館料】一般1000円（800円）、高・大学生・シニア65歳以上800円（600円）、

中学生600円（400円）、小学生以下無料 *障がい者手帳をお持ちの方700円*（内は20名以上の団体料金）

【後援】愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、名古屋市教育委員会、

瀬戸市、多治見市、名古屋市長立小中学校PTA協議会



公益財団法人
横山美術館
Yokoyama Art Museum

瀬戸 の濃美

やきものの心に挑んだ
わざ



「東京薩摩高浮彫唐子海遊図花瓶」(一対)
明治時代前期 成瀬誠志



「染付花鳥図大花瓶」明治時代前期～中期
川本樹吉

「西浦焼上絵金彩
調味料入れセット」
明治時代中期
西浦圓治(五代)



瀬戸焼と美濃焼は千年を超える歴史を有し、隣接する両地域は互いに交流を続けました。19世紀初めに有田から瀬戸へ伝わった磁器生産は美濃にも広がり、名古屋や江戸などでの日用品需要にも応えて大きな発展を見せます。明治時代になると、生産と販売が尾張藩の統制を離れ、それまで瀬戸物として一括されていた瀬戸焼と美濃焼にも独自のアイデンティティが生まれます。酸化コバルトによる絵付けや鑄込み成形など、西洋からもたらされた技術を積極的に導入しながら美術品へと質を高め、輸出用陶磁器の華を咲かせていきました。瀬戸においては国内外で高い評価を受けて瀬戸焼の輸出の途を開いた川本樹吉や、大物づくりに長けた加藤紋右衛門、陽刻などの立体装飾を巧みに行った川本半助らが活躍し、美濃においても染付の細密画を得意とした加藤五輔や、精緻な薩摩焼風の作品に才能を発揮した成瀬誠志、美しい吹き絵の釉下彩で知られる西浦焼の西浦圓治などが現れました。本企画展では優れた技巧で世界を魅了した、近代の瀬戸焼・美濃焼の美を紹介いたします。



「青地陽刻上絵金彩
花鳥図花瓶」
明治時代中期～後期
川本半助(六代)



「染付芥子図花瓶」明治時代前期～中期
加藤五輔



「染付花鳥図花瓶」明治時代前期～中期
加藤紋右衛門(六代)

関連イベント

絵付け体験
「はじめて描く
染付のうつわ」



イメージ

美濃の原料にこだわったお皿に、初心者にもやさしい植物のモチーフを下絵付けします。

講師：青山建祐(草の頭窯)

◎日時：2021年4月25日(日) 13:30～15:00

◎定員：20名

◎申込方法：3月13日(土)からお電話にて先着順

◎参加費：3000円(材料・焼成費・入館料込み)

*各イベントの詳細につきましてはお問い合わせください。

ギャラリートーク

当館学芸員による作品解説

3月20日(土)、4月3日(土)、4月17日(土)

5月1日(土)、5月15日(土)、6月5日(土)

◎場所：美術館展示室 ◎時間：13:30より1時間程度

*事前申込不要、要入館料

年間パスポート会員募集中!

年会費4,000円(更新3,000円)

当美術館では、「年間パスポート」会員を募集しております。入会されますと何年度でも無料でご入館いただけますとともに、割引や図録の進呈、各種催事の優先的なご案内などをいたします。



公益財団法人
横山美術館
Yokoyama Art Museum

〒461-0004 名古屋市東区葵 1-1-21
TEL.052-931-0006 FAX.052-931-0008
<http://www.yokoyama-art-museum.or.jp>
※最新情報はHPをご確認ください。



次回企画展 近代日本の礎に大きく貢献した

「明治・大正のやきもの」(仮題)

2021年6月25日(金)～9月20日(月・祝)予定

明治時代以降の輸出陶磁器については歴史が浅いわりに品物が海外へ渡り国内の現存数が少ない。また、窯元が倒産・廃業など資料が無く、はっきりとした事が解っていない。少しでも歴史の解明に力を注ぎ、日本の技術の素晴らしい里帰り陶磁器を中心に展示。

【交通のご案内】

名古屋市営地下鉄東山線

「新栄町」駅(1番出口) 徒歩4分

名古屋市営地下鉄桜通線

「高岳」駅(3番出口) 徒歩4分

*専用の駐車場はございません。お車でのご来場の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。



100円割引
本企画展期間中、この割引券を提示する場合は、有効期限2021年6月13日 他館利用不可